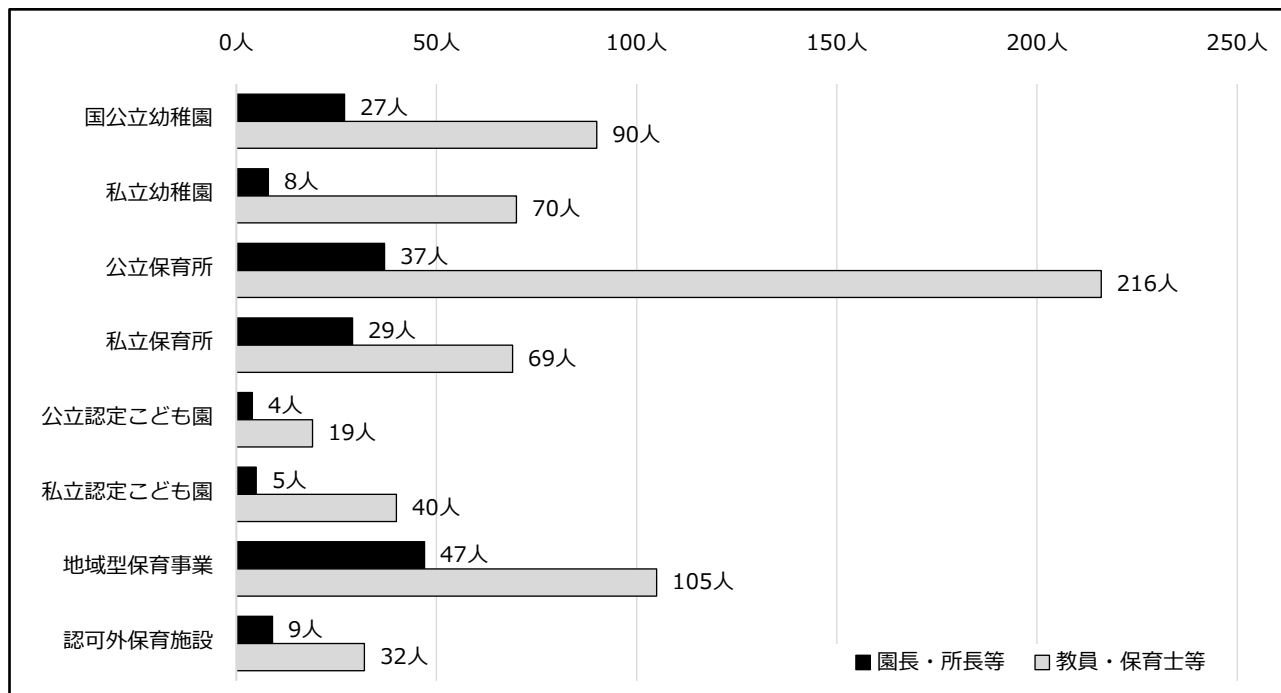


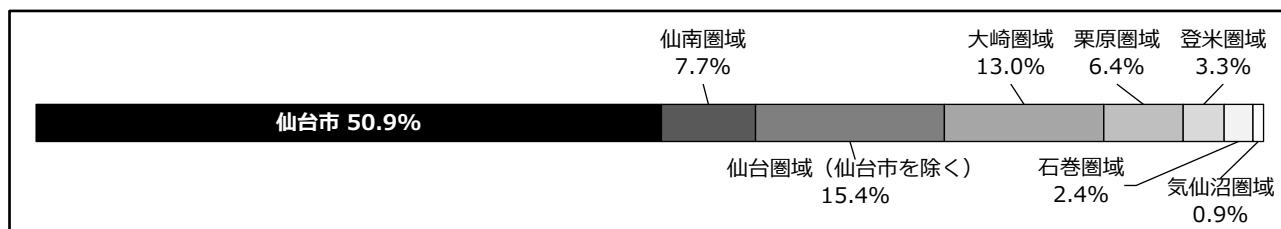
## 幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長， 教員・保育士等）

### 回答数

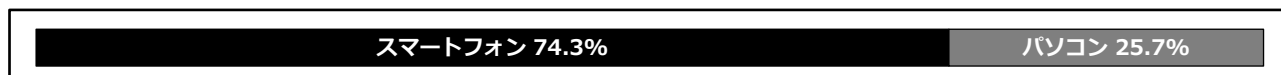
対象施設			回答数（人）			
施設区分	施設数	園長・所長等	回答率	教員・保育士等	合計	
幼稚園	国公立	27	36.5%	90	117	
	私立	8	5.4%	70	78	
	小計	35	15.7%	160	195	
保育所	公立	37	23.8%	216	253	
	私立	29	10.9%	69	98	
	小計	66	15.7%	285	351	
認定こども園	公立	4	50.0%	19	23	
	私立	5	7.3%	40	45	
	小計	9	11.7%	59	68	
地域型保育事業	288	47	16.4%	105	152	
認可外保育施設	277	9	3.3%	32	41	
合計	1,289	166	12.9%	641	807	



### 施設所在地

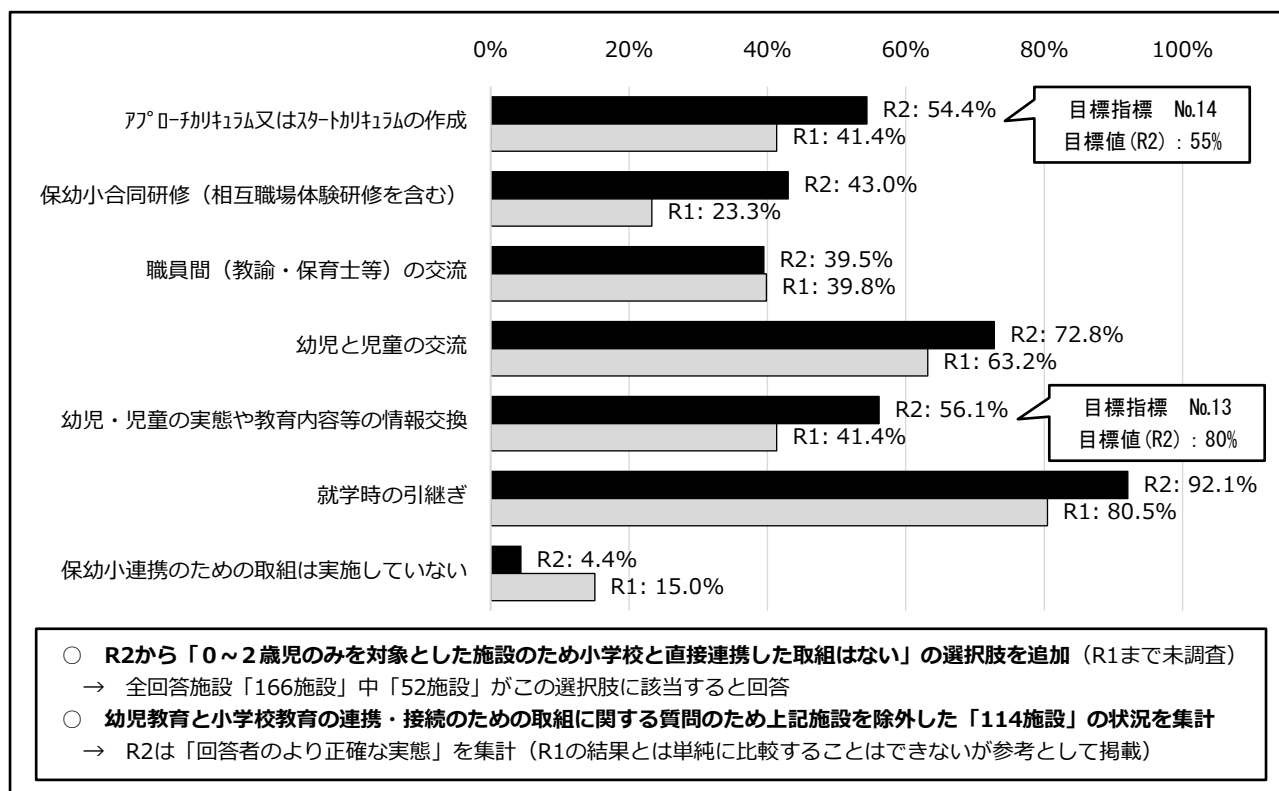


### 回答方法



# 1 保・幼・小連携について（園長・所長のみ回答）

## 1-1-1 保幼小連携・接続のための取組としてどのようなことを実施していますか。（該当するもの全て選択）



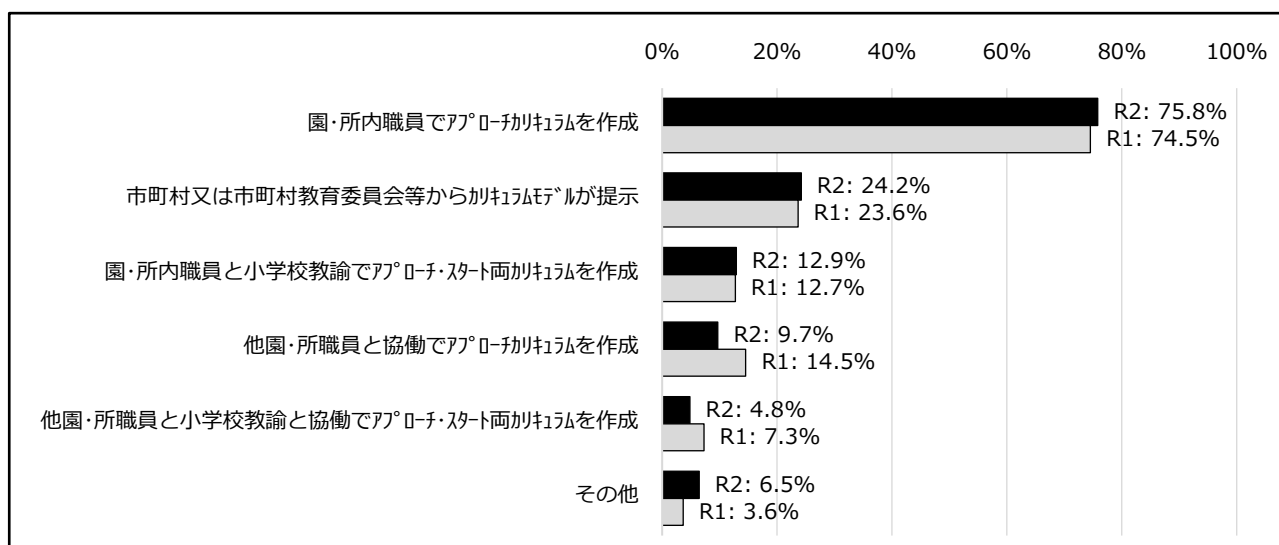
（今年度の保幼小連携・接続のための取組状況の施設類型別内訳）

連携内容	施設類型		公立		私立		その他	
	国公立幼稚園	私立幼稚園	公立保育所	私立保育所	公立認定こども園	私立認定こども園	地域型保育事業	認可外保育施設
カリキュラム作成	85.2%	62.5%	54.5%	37.0%	75.0%	60.0%	0.0%	0.0%
保幼小合同研修	70.4%	0.0%	51.5%	33.3%	75.0%	20.0%	0.0%	0.0%
職員間の交流	63.0%	37.5%	48.5%	14.8%	75.0%	20.0%	16.7%	0.0%
幼児と児童の交流	74.1%	87.5%	87.9%	66.7%	50.0%	100.0%	33.3%	0.0%
情報交換	81.5%	62.5%	69.7%	29.6%	75.0%	20.0%	33.3%	0.0%
就学時の引継ぎ	92.6%	100.0%	100.0%	88.9%	100.0%	100.0%	66.7%	50.0%
<b>取組未実施</b>	0.0%	0.0%	0.0%	<b>3.7%</b>	0.0%	0.0%	<b>33.3%</b>	<b>50.0%</b>

### 【概要・考察等】

- 保幼小連携・接続のための取組を「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」と回答した割合は、増加傾向が見られる。県教育委員会が作成し、県内全ての幼児教育施設と小学校等に配布した「宮城県版保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて」の活用を更に促すとともに、市町村の取組を収集し、好事例を紹介するなどの手立てが必要である。
- 「幼児・児童の実態や教育内容等の情報交換」以外の保幼小連携・接続のための取組と回答した割合が増加しており、単なる「情報交換」から幅広い連携・接続の取組に深化していると考えられる。一方で、切れ目のない教育を推進するためには、保幼小の相互理解が不可欠のため、保幼小合同研修会等を通して引き続き啓発していくことも必要である。

1-1-2 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）



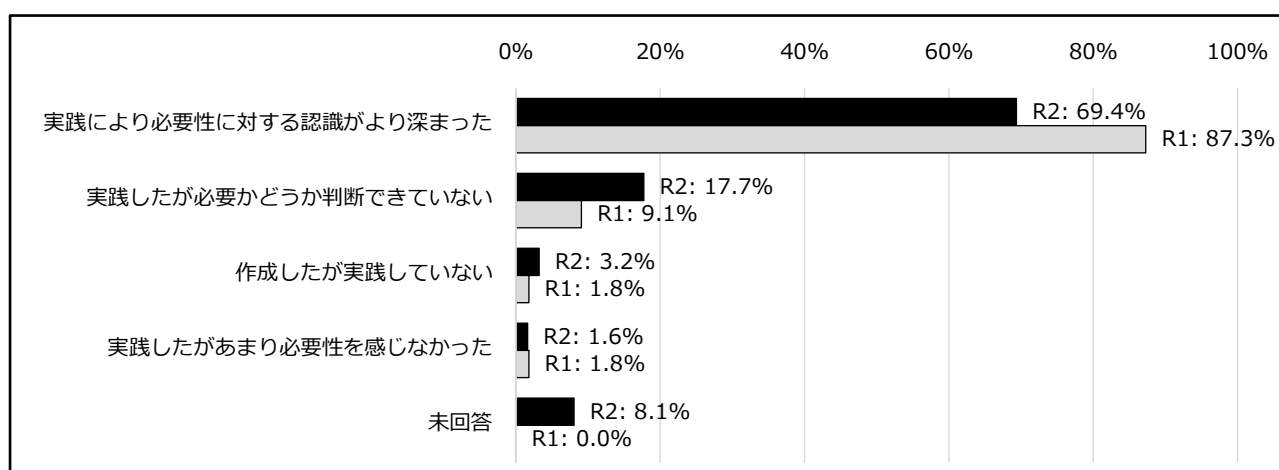
【その他の主な内容】

主任会や管理役員での話し合いをベースに作成，小学校と一緒に作成することも現在検討中

【概要・考察等】

- 「園・所内職員でアプローチカリキュラムを作成」している割合が最も高かった。
- 次いで、市町村等から「カリキュラムモデルが提示」されている割合が高かった。市町村等から提示されることで幼児教育から小学校教育への一体的な取組がより期待できるため、引き続き市町村との連携が必要である。
- 小学校教諭と協働で作成している割合が低かった。カリキュラム作成には、相互に幼児・児童の育ちや教育・保育の理解が必要なことから、保幼小連携の必要性・重要性について一層の啓発が必要である。

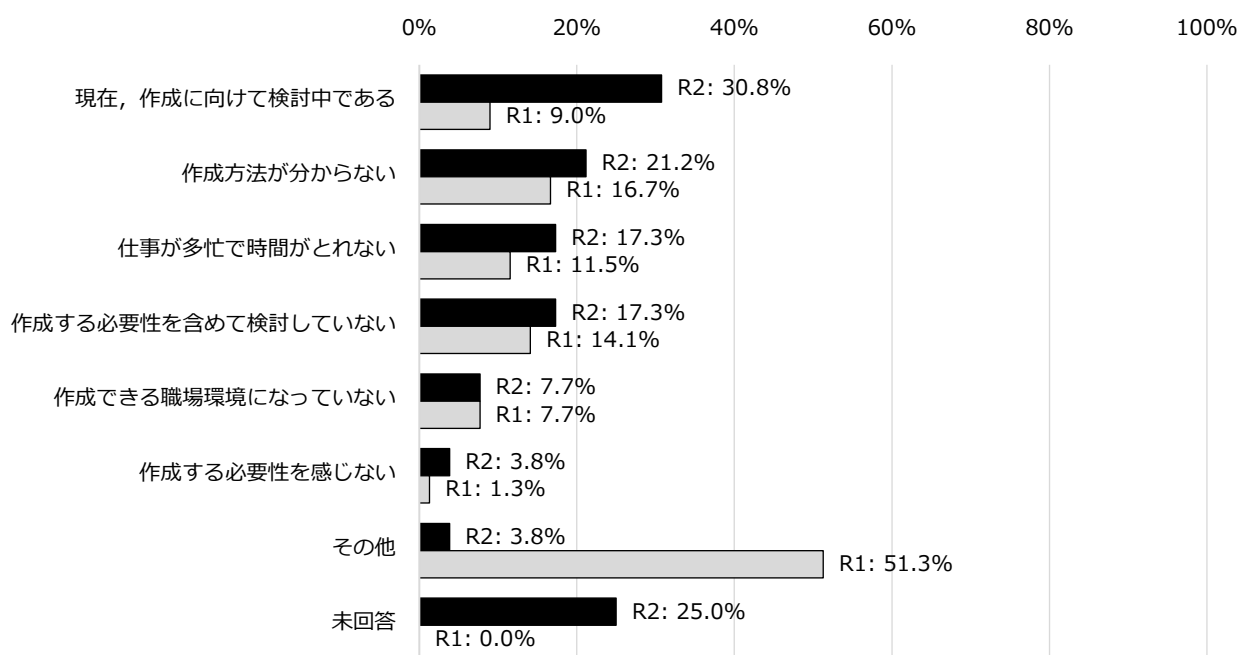
1-1-3 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通じた園・所内全体での成果をお答えください。



【概要・考察等】

- 「実践により必要性に対する認識がより深まった」と回答した割合は、昨年度より17.9ポイント減少した。
- 「実践したが必要かどうか判断できていない」と回答した割合は、昨年度より8.6ポイント増加した。
- カリキュラムの作成と同時に、保幼小合同研修会等で小学校教諭との共通理解を図り、カリキュラムを実践することが必要である。

**1-1-4 「1-1-1」で「アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成」を選択しなかった方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）**



- R2から「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を追加（R1まで未調査）  
→ 質問該当施設「104施設」中「52施設」がこの選択肢に該当すると回答
- アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成が求められる施設に関する質問のため上記施設を除外した「52施設」の状況を集計  
→ R2は「回答者のより正確な実態」を集計（R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載）

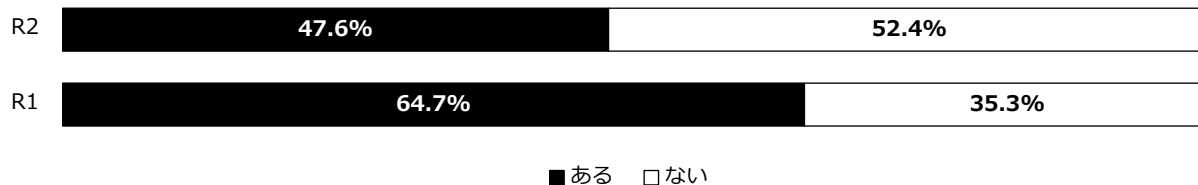
【その他の主な内容】

カリキュラムを意識した保育をしており、今後作成を進めていきたい  
必要に応じて個々の小学校に沿った連絡を実施している

【概要・考察等】

- 「現在、作成に向けて検討中である」と回答した割合が増加したことから、引き続きカリキュラムの作成・実践等の好事例を提供していく必要がある。
- 一方で、「作成方法が分からない」と回答した割合も増加したことから、「宮城県版保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて（資料編）」の活用を更に広めていく必要がある。

1-2 小学校との連携を図るための連絡協議会等の連携組織がありますか。

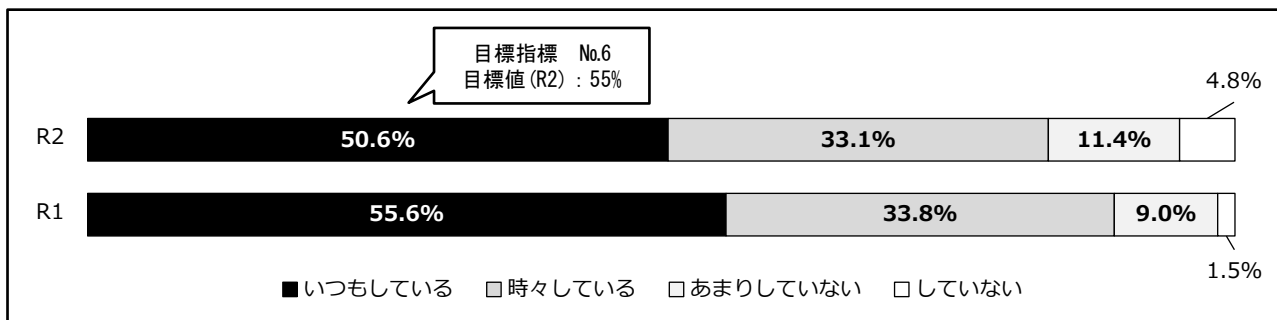


【概要・考察等】

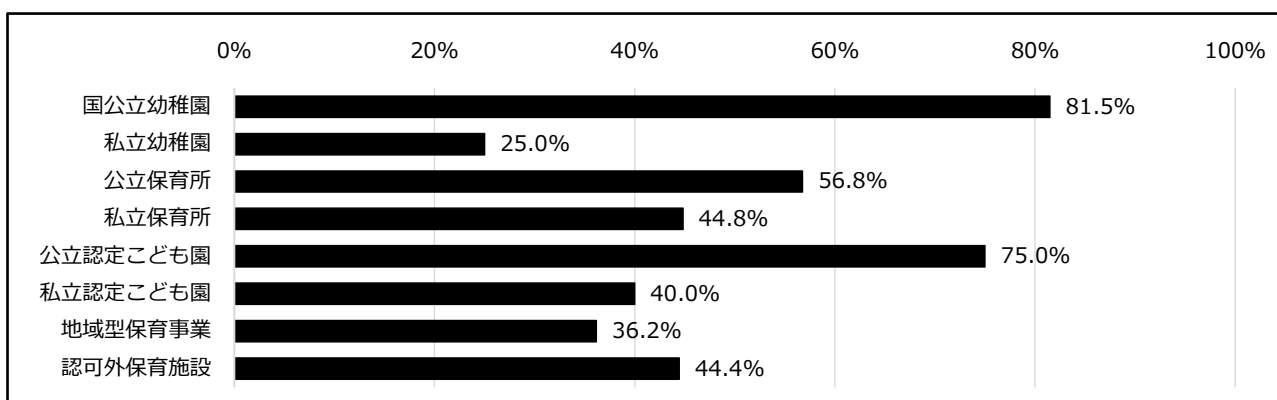
- 小学校との連携組織が「ある」と回答した割合は、昨年度より17.1ポイント減少した。
- 小学校区内に少数の幼児教育施設しかない場合は、連携組織がなくとも幼児教育施設と小学校が個別に連絡を取り合い、連携が図られている事例もある。
- 今後、幼児教育施設や小学校の連携の「意識」が高まれば、必ずしも「組織」があることが必要ではなくなることも考えられる。

## 2 基本的な生活習慣について（園長・所長のみ回答）

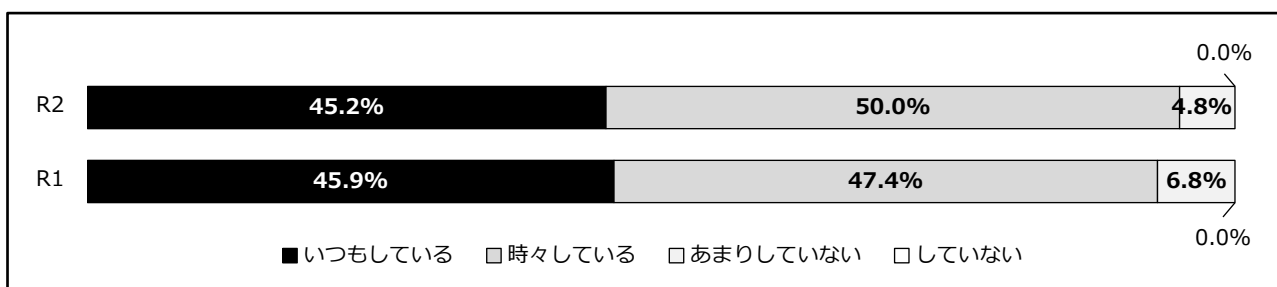
### 2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



（今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳）



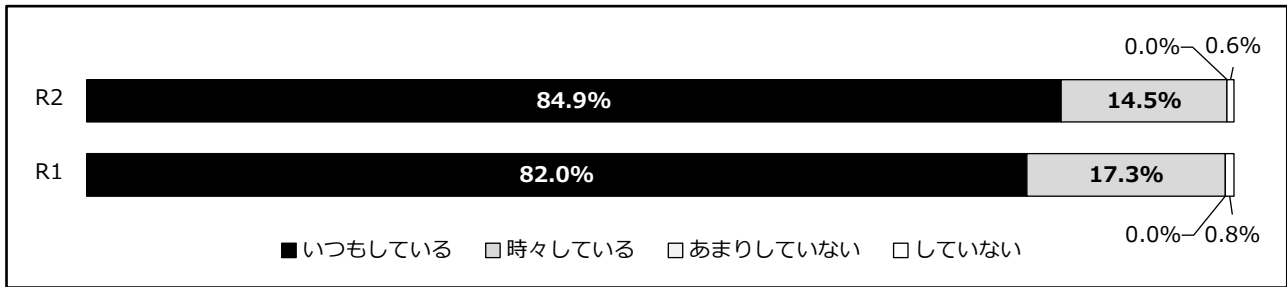
### 2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



#### 【概要・考察等】

- 基本的な生活習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より5.0ポイント減少し、取組を「あまりしていない」「していない」と回答した割合は、昨年度より5.7ポイント増加した。
- 家庭への啓発を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、昨年度より1.9ポイント増加した。
- 引き続き日々の保育や保護者支援で積極的に働き掛けてもらえるように啓発していく必要がある。

### 2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

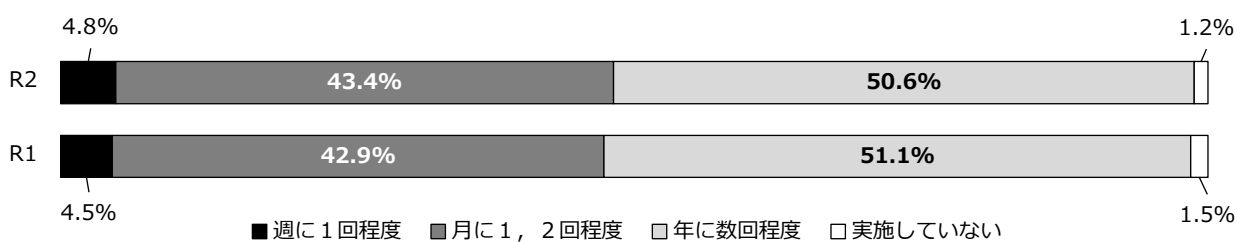


#### 【概要・考察等】

- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント増加した。
- 「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、99.4%であることから、体を動かす習慣が着実に広がっていることがうかがえる。

### 3 園内研修について（園長・所長のみ回答）

園内研修の頻度についてお答えください。



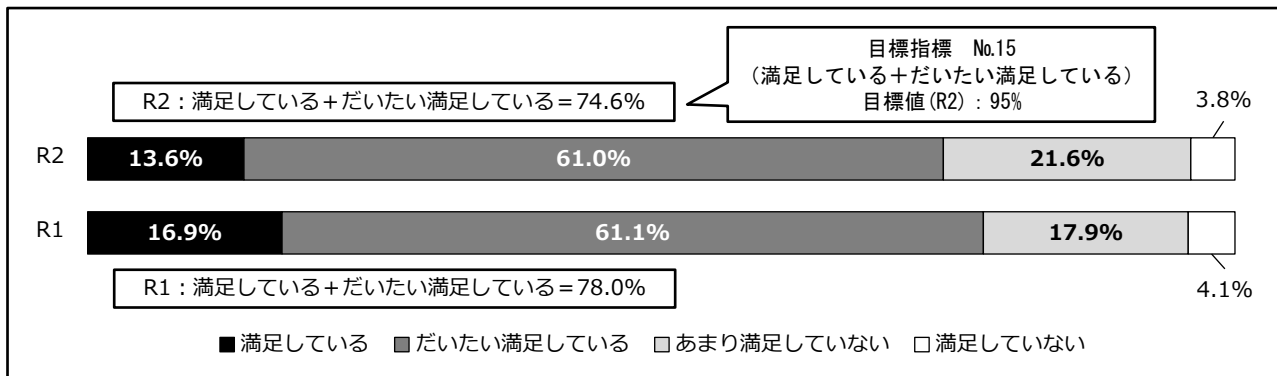
#### 【概要・考察等】

- 園内研修の頻度が「週に1回程度」「月に1, 2回程度」と回答した割合は、昨年度より0.8ポイント増加したが、「年に数回程度」と回答した割合が、50.6%と半数以上であることから、継続的かつ定期的な園内研修の取組は難しい状況であることがうかがえる。
- 園内研修を継続的かつ定期的に行っている施設の研修計画や取組を好事例として情報を収集し、提供していきたい。

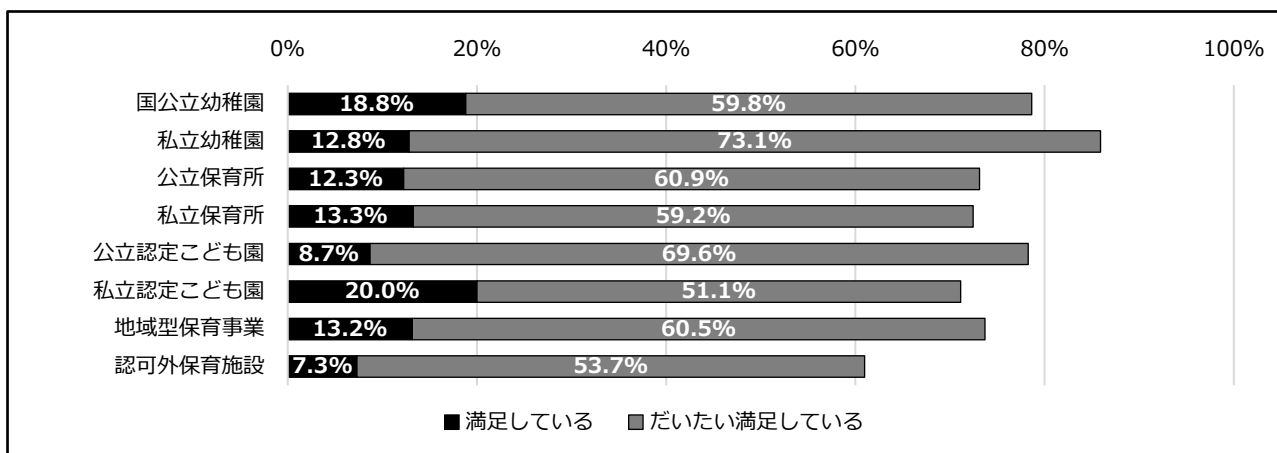


## 4 研修について（全員回答）

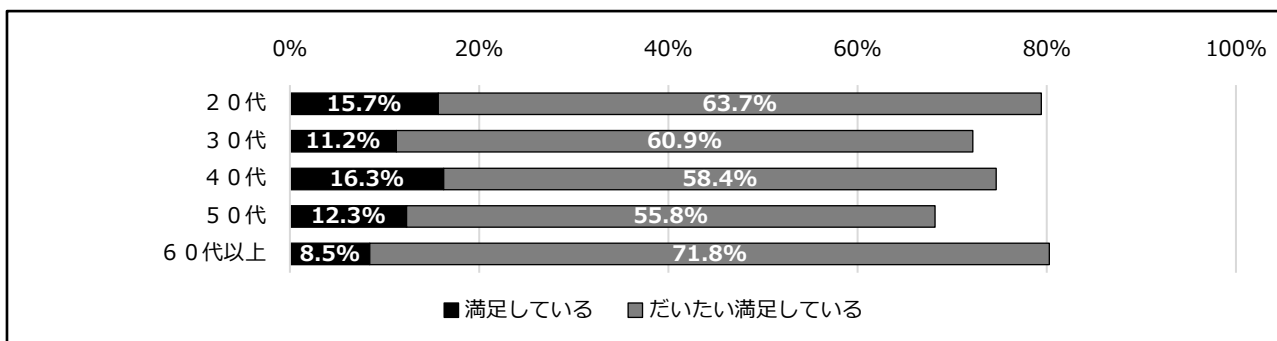
### 4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



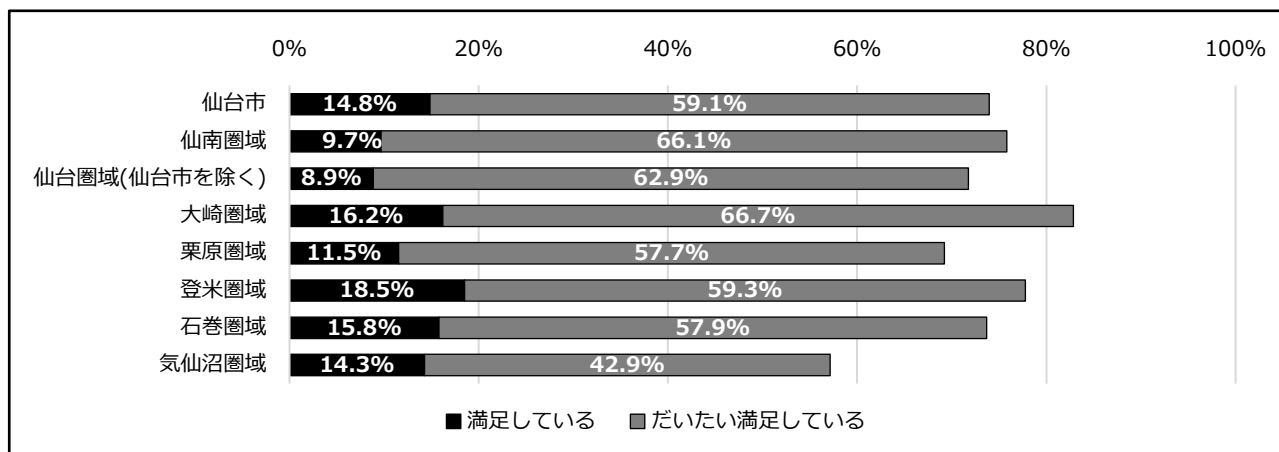
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳)



(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳)



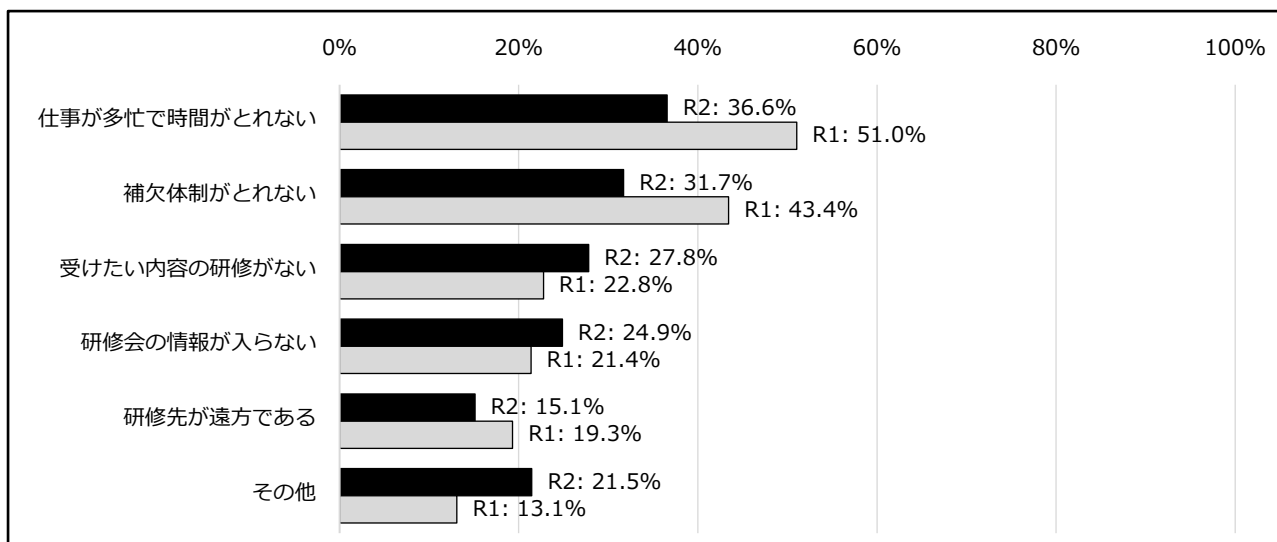
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)



**【概要・考察等】**

- 現在の研修状況に「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、昨年度より3.4ポイント減少した。
- 年代別では、20代と60代以上で「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、80%程度であったが、50代は、68.1%と10ポイント以上低かった。
- 圏域別では、気仙沼圏域において、昨年度は「満足している」との回答がなかったところ、今年度は14.3%であったが、「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、全体の中では低かった。要因の一つとして、研修先となる場所が遠方であることが挙げられている。

**4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）**



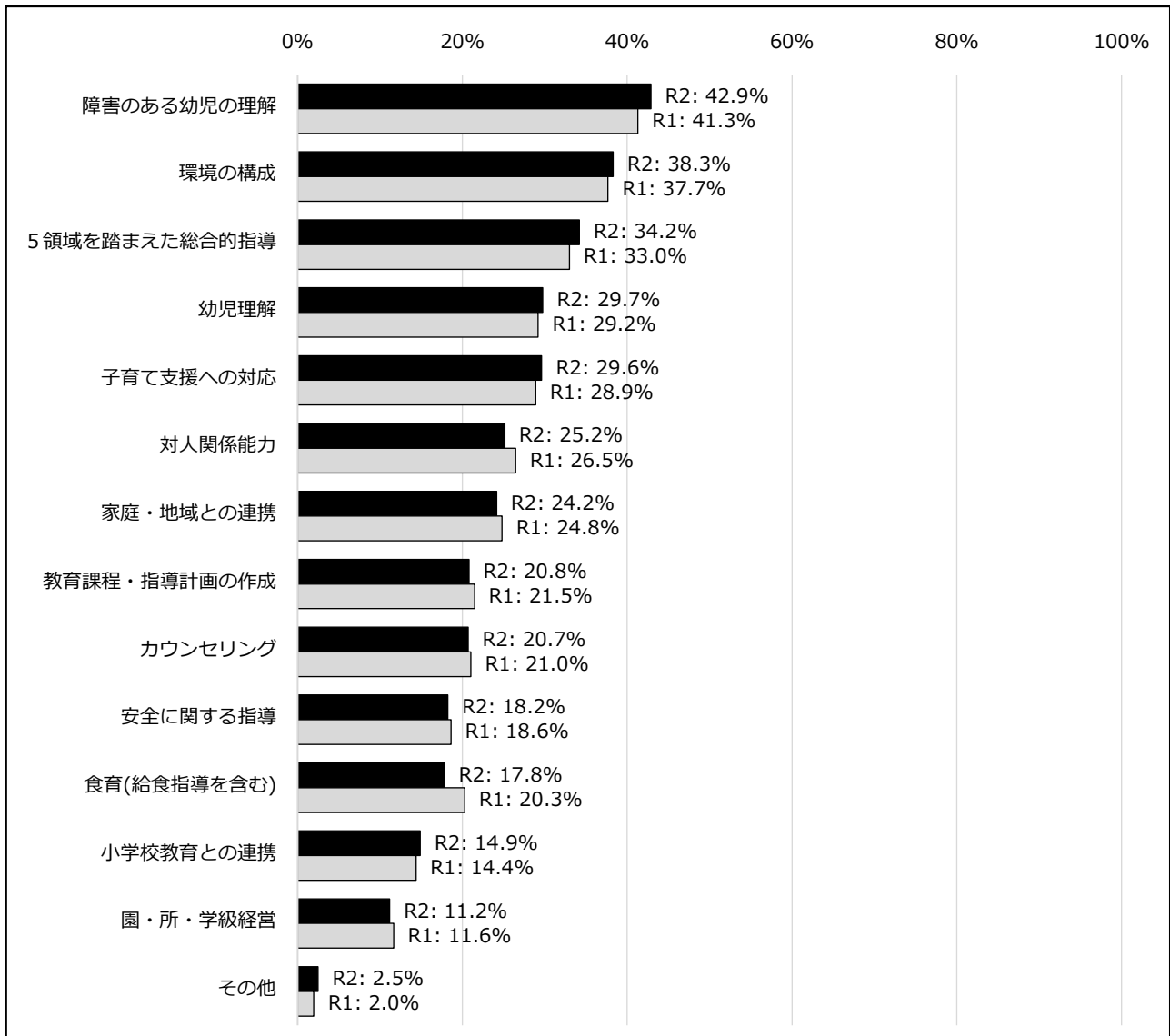
**【その他の主な内容】**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため研修会が中止になっている  
施設長・指導者向けの研修会が少ない

**【概要・考察等】**

- 昨年度と同様、「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として回答した割合が最も高かったが、数値が昨年度より14.4ポイント減少した。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため研修会が中止となったことや、研修会の情報が入らないことなども理由の一つとして挙げられている。

4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】

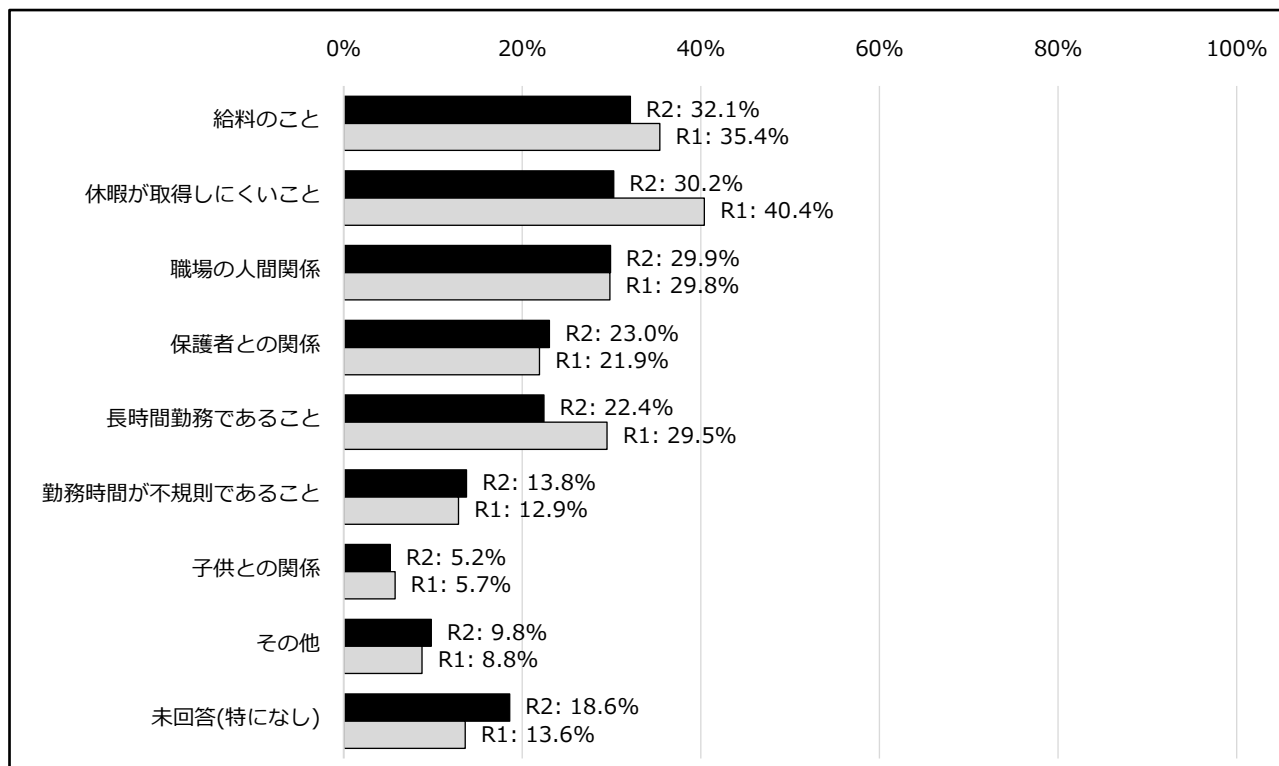
新しい生活様式における保育の在り方，最新の発達理論，防災，危機管理，人材育成

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「障害のある幼児の理解」を受講したい内容と回答した割合が最も高かった。
- 受講したい内容の順位は、概ね昨年度と変わらず、同様の傾向が継続している。

## 5 職業上の悩みについて（全員回答）

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



### 【その他の主な内容】

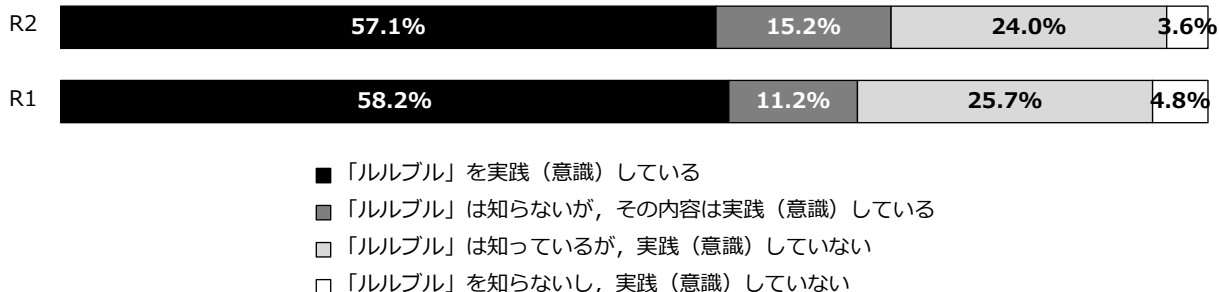
職員不足，職場環境の改善，園・所の運営

### 【概要・考察等】

○ 昨年度は、「休暇が取得しにくいこと」を理由として回答した割合が最も高かったが、今年度は「給料のこと」が最も高い割合となった。

## 6 「ルルブル」について（全員回答）

子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。

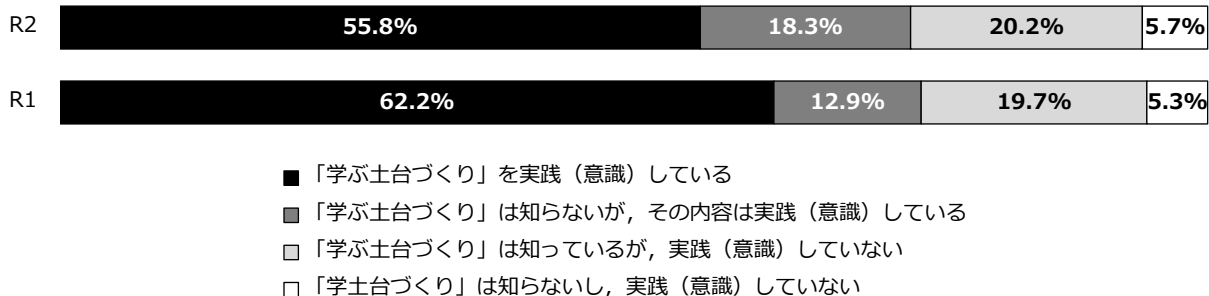


### 【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント増加したことから、多くの施設で前向きに取り組まれていると考えられる。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より2.8ポイント増加したことから、更に「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

## 7 「学ぶ土台づくり」について（全員回答）

幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



### 【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より1.0ポイント減少した。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より5.8ポイント増加したことから、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。